

第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 倉田 清美

研究テーマ	自分の考えをもち、生き生きと伝え合う児童の育成 －読むこと・書くことを中心にした多様な言語活動を通して－
-------	---

1 単元名 のりものはかせになつてずかんをつくろう「いろいろなふね」

2 つけたい力

必要な情報を取り出し、文章構成上の順序を考えながら伝える力

3 目標

- いろいろな乗り物の働きやつくりの工夫に興味をもち、調べるために進んで本を読もうとする。
(関心・意欲・態度)
- 本で調べたことについて、読んだ内容を基本の文型を使ってまとめ、説明的な文章を書くことができる。
(書くこと)
- 乗り物の役目や工夫・機能等の大事な言葉や文を見付けたり、文章の構成上の順序や文型に気をつけたりしながら文章を読むことができる。
(読むこと)
- 主語と述語との照応関係に注意して文や文章を読むことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の内容「C 読むこと」の指導事項「イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」及び「エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」に関連している。

本教材文「いろいろなふね」は、客船、フェリーボート、漁船、消防艇という4つの特徴的な機能を持った船が取り上げられており、それぞれの役目や構造、装備について、興味をもって読み進めることが期待できる。4つの船の説明はいずれも、まず、それぞれの船がどのような役目をもっているかが最初に提示され、続く文で、それぞれの船の構造や装備について述べられるという構成になっているため、船の役目と工夫、機能との関係が捉えやすい。書かれている事柄の順序に気付きながら、内容を正しく読み取るという説明文の読みの基本を身に付けるのに適した教材であると言える。

どのように文章を構成しているかという、文章表現上の順序や事柄と事柄の関係を考えながら読み取ったり、文章の内容や表現からみて大事な言葉や文を書き抜くことを通して言葉や文を関係付けて整理したりするという基本的な技能の素地を養うことを目的としている。

(2) 児童の実態 (在籍20名)

<意識調査> 9月27日 20名実施

① 読書は好きですか	はい 18名	いいえ 2名	
② 物語文と説明文どちらをよく読みますか	物語文 20名	説明文 0名	
③ 乗り物の本を読んだことがありますか	はい 4名	いいえ 16名	
④ どんな乗り物の本を読みましたか	電車 2名	救急車 1名	パトカー 1名
⑤ 作文や日記を書くことは好きですか	はい 8名	いいえ 12名	
⑥ 好きな理由はなんですか	お話を書いているみたいで楽しい		
⑦ 嫌いな理由はなんですか	面倒くさい、難しい、何を書いたらよいか考えつかない		

＜実態調査＞ ＊前説明文教材「どうやって みを まもるのかな」の学習より

①	問いと答えの文を見つけることができる	正答 14名	誤答 6名
②	書かれている事柄の大体を読み取ることができる	正答 15名	誤答 5名
③	キーワードになる言葉を見つけることができる	正答 11名	誤答 9名
④	学習したことを簡単な文章に表すことができる	正答 9名	誤答 11名

意識調査の結果や日頃の観察から、児童は、「読書は好き」と答えているものの、きちんと座って読書活動をしたり、長い文章を集中して読んだりすることを苦手とする児童が多い。また、読書をする際にも、絵や写真を見ることや簡単な言葉遊びには興味があるが、それを説明する文章まで読んでいく児童はほとんどみられない。読んでいく本のジャンルを尋ねてみると「なぞなぞ遊び」やペネロピシリーズのような短い文章の絵本に偏っている。乗り物の本に関してはほとんどの児童が手にしたことがない。書くことに関しては「面倒くさい」「難しい」という理由から苦手意識をもつ児童が多数見られる。学習生活全般を見ると、体を動かす活動には大変意欲的に取り組む反面、集中して学習に取り組んだり、丁寧な字で文章を書いたりすることを苦手とする児童が多い。

6月に学習した説明的な文章「どうやって みを まもるのかな」では、「問い」と「答え」がどこに書かれているかを見つけたり、写真を手がかりにして説明されている事柄の大体を読み取ったりする学習を行った。しかし、まだまだ語彙が少なく、文章に触れる経験が少なかったためか大切な言葉に着目して自力で内容を読みとっていく力が十分でなかったり、読み取ったことをまとめる作業では、個人差が大きく、自力ではなかなかできない児童も見られた。動物ごとに書かれている文章のまとまりを意識しながら読むことはできたが、説明のための基本的な文型に注意して、説明の順序を考えながら読むことは初めてである。

(3) 指導観

本単元は、1学期に学習した「どうやって みを まもるのかな」に続き、2つ目の説明的文章となる。船に関する知識が少ないという児童の実態を踏まえ、単元の導入(第1次)では、まず写真等の資料を提示しながら、船に対する関心を高め、学習への意欲を喚起したい。さらに、学んだことを生かし、自分の気に入った乗り物を調べて各自乗り物カードを作成しそれをクラス全体でまとめ一冊の「乗り物図鑑」を作ることを単元を貫く言語活動として掲げる。これより、教科書の文章のように説明する文章を書くためには、どのようなことを書けばよいか、読むことと書くことを関連させながら学習を進め、学びたいという意欲を生じさせたい。

第2次の教材文の読み取りでは、「役目」「工夫(構造・装備)」「機能(できること)」という順序で書かれている部分を意識させ、文章の構成が分かるような発問の工夫をしたり、役目と工夫、機能を色分けしたりしながら読み取る活動を通して「いろいろなふねが、それぞれのやくめにあうようにつくられています。」という一文に迫っていきたい。また、「…は～のための○○です。」や「この…には～や～があります。」といった基本的な文型を繰り返し読んだり書いたりすることでしっかりおさえ、役目や工夫、機能を確実に読み取らせる。そして、自分たちの乗り物図鑑を作るときに、その構成や文型を活用できるようにしていきたい。また、写真を効果的に活用し、記述と照らし合わせることによって、内容の理解を深める。

その後、第3次第4次では学習した船以外のいろいろな乗り物のことをほかの本で調べ、学んだ説明の仕方を利用して「乗り物カード」を作成する学習活動へと展開する。調べた乗り物について説明する文を書く際には、『いろいろなふね』で学習した基本文型(役目「～は、～のためのふねです。」構造「～には、～や～があります。」装備「～は、～や～をつんでいます。」機能「(人は)～ます。」)を使って「役目」「工夫」「機能」について書いていく。児童にとって、説明するための文を書くことは初めての経験となるため、最初は共通の乗り物「救急車」を題材にして説明的文章の書き方を学び、その上で、自分の調べた乗り物を説明する文を書く活動へと移っていくようにする。このことによって、読書の幅を広げ、基本的な文型を確実に使えるようになることをねらいたい。

さらに第5次では、各自が作成した乗り物カードをまとめ、一冊の乗り物図鑑を完成させたい。

(4) 研究テーマとの関連について

本単元では、学習指導要領[C 読むこと]の第1学年及び第2学年の言語活動例ウ「物事の仕組みなどについて説明した本や文章を読む」に関連させて、乗り物について書かれた本を読み「乗り物カードを書いて乗り物図鑑を作ろう」を、単元を貫く言語活動とする。また学習指導要領[B 書くこと]の第1学年及び第2学年の言語活動例ウ「身近な事物を簡単に説明する文章などを書く」に関連させ、説明する順序を考えながら、基本文型に沿って乗り物の役目や工夫・機能を簡単な文章にまとめる力をつけたい。

「乗り物カード」を書く学習では、友達と一緒に見直す場を設定し、意見や感想を交流させながら作業を進めていくようにする。友達からのアドバイスや教師から示された見直しの観点を参考にして、よりわかりやすい乗り物カードに修正していけるようにし、作品への自信へとつなげたい。

5 学習計画（13時間扱い）

次	時	主な学習活動及び学習形態	評価規準及び評価方法
1	1	<p>「乗り物図鑑」づくりの学習への見通しをもとう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 船について知っていることを出し合い、興味をもって全文を通読する。 新出の漢字やカタカナの練習をする。 初めて知っておもしろかったこと、興味をもったことなどを発表し合い、「乗り物図鑑」づくりの学習の見通しをもつ。 <p>【一斉】</p> <p>乗り物図鑑をつくらせて来年の1年生に読んでもらおう。</p>	<p>(関) 船について興味をもち、進んで読もうとしている。</p> <p>【評価方法】 観察、発表、音読</p> <p>(関) おもしろかったこと、もっと知りたいことなど簡単な感想をもとうとしている。</p> <p>【評価方法】 観察、発表、ワークシート</p>
2	3 4 5 6	<p>乗り物カードの書き方の秘密を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「きゃくせん」の役目や工夫・機能を読み取る。 「フェリーボート」の役目や工夫・機能を読み取る。 「ぎょせん」の役目や工夫・機能を読み取る。 「しょうぼうてい」の役目や工夫・機能を読み取る。 <p>【一斉→個人→ペア→一斉】</p>	<p>(読) 役目や工夫・機能等の大事な言葉や文を見付けながら読んでいる。</p> <p>【評価方法】 発表、ワークシート</p> <p>(読) わかりやすく説明するための文章の構成上の順序や文型に気をつけながら文章を読んでいる。</p> <p>【評価方法】 発表、ワークシート</p> <p>(言) 主語と述語との照応関係に注意して文や文章を読んでいる。</p> <p>【評価方法】 観察、ワークシート</p>
3	⑦ 8 9	<p>好きな乗り物について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「救急車」を説明するカードを書き、乗り物の役目や工夫・機能を伝えるための書き方を学ぶ。 乗り物について書かれた本を読む。 好きな乗り物を選んで必要な事柄を調べる。 <p>【一斉→個人→ペア→一斉】</p>	<p>(関) 乗り物に興味をもち、乗り物について書かれたいろいろな本を読もうとしている。</p> <p>【評価方法】 観察、発表</p> <p>(読) 好きな乗り物を選び、役目や工夫・機能を見付けながら読んでいる。</p> <p>【評価方法】 発表、ワークシート</p>
4	10 11 12	<p>乗り物カードを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな乗り物の役目や工夫を調べ「乗り物カード」にまとめる。 書いたものをグループで読み合い、内容を深め 	<p>(書) 紹介したい乗り物の特徴を文型に沿ってわかりやすくまとめている。</p> <p>【評価方法】 乗り物カード</p> <p>(書) 友達のアドバイスを生かし、乗り</p>

		る。 【個人→ペア→一斉】	物カードの内容を深めながら書いています。 【評価方法】発表，乗り物カード
5	13	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">乗り物カードを図鑑にまとめよう。</div> ・乗り物カードを図鑑にまとめ、学習を振り返りまとめをする。 【個人→グループ→一斉】	(関) 友達の作った乗り物カードを読んで、様々な乗り物の役目や工夫・機能を知ろうとしている。 【評価方法】観察，発表，ワークシート

6 本時の学習

(1) 目標

「救急車」について、図書資料より必要なことを読み取り、「いろいろなふね」で学習した基本文型を生かすことによって、役目や工夫・機能を入れて説明する文章を書くことができる。

(2) 準備・資料

教材文提示用カード，救急車の写真，ワークシート，乗り物カード

(3) 展開

学習活動及び内容	教師の指導及び支援と評価						
1 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">せつめいぶんのかきかたのひみつをつかって、「きゅうきゅうしゃ しょうかいカード」をつくろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時をふまえて、自分たちが興味をもった乗り物について調べ「乗り物カード」を書く学習を始めることを知らせ、学習の見通しと目的意識をもって本時の学習に取り組めるようにする。 						
2 解決の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 何のための乗り物か？ そのために何がっているか？ それを使うと何ができるか？ この3点を見つければ書けそうだ！ </div>	<ul style="list-style-type: none"> 乗り物カードを書くために必要なことは何か確認することを通して、解決への見通しを持たせる。 前時までの学習の積み重ねが活用できるように、これまで学習した4つの船の説明文を教室に掲示しておき、乗り物の役目と工夫・機能を説明するための文や言葉を想起できるようにする。 						
3 共通図書資料の中から役目，工夫，機能を見つける。 【自分タイム】 (1) キーワードを色別の付箋紙に書く。 (2) 付箋紙をワークシートに整理する。	<ul style="list-style-type: none"> 事前に共通図書資料の一人読みを行うことによって、ある程度、自分の考えをもって本時に臨めるようにする。 役目，工夫・機能が一目見てわかるように、キーワードを色別の付箋に書くことを知らせる。 その乗り物にしかない役目に合った「工夫」を各自見つけるよう助言する。 「工夫」とその工夫からできる「機能」とを関連づけてワークシートに整理するよう助言する。 自分の考えがまとめられない児童には、教師との対話を通して、「あるもの」や「できること」に気付きキーワードが見つけれられるように支援する。 						
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>チャット</td> <td>ストレッツ</td> </tr> </table> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>ほうたい</td> <td>ガーゼ</td> </tr> </table> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>くふう</td> <td></td> </tr> </table> </div>	チャット	ストレッツ	ほうたい	ガーゼ	くふう		
チャット	ストレッツ						
ほうたい	ガーゼ						
くふう							
4 友達と考えを交流する。 【交流タイム】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> この工夫は役目と合っているね。 この機能はこの工夫からできるかね。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の交流タイムではペアでの話し合いを中心に学習を進めていく。 各自が整理したワークシートをペアで読み合うことによって、気付きやまとめ方をペアで共有できるようにする。 						

5 全体で考えを交流する。

【全体タイム】

6 自分の考えを再構築し、基本文型に沿って乗り物カードを書く。

- ・「〇〇は、〇〇ための〇〇です。(事故でけがをした人や、急な病気の人を病院に運ぶための)
- ・「この車の中には、〇〇や〇〇あります。(この車は、〇〇や〇〇をつんでいます。)」
- ・「きずの手当てをしたり、〇〇したりします。」

7 本時のまとめをする。

- (1) 学習を振り返る。
- (2) 次時の学習を知る。

- ・交流を通して、「役目」に合っていない「工夫」や、「工夫」に合っていない「機能」に気付いた場合は、付箋紙の貼り替えにより修正ができるようにする。
- ・どうしても「役目」「工夫」、「工夫」「機能」が合わないキーワードがある時は、ワークシートの「もう1度考えてみようコーナー」に付箋紙を張り直し全体タイムで取り上げることを適宜助言する。

- ・交流タイムで出されたキーワードを黒板で整理することにより、「役目」「工夫」、「工夫」「機能」が合っているか確認をする。その際、見落とししたキーワードを確認したり、読み取った情報をクラス全体で共有したりする。
- ・交流タイムで解決できなかったキーワード(もう1度考えてみようコーナーに貼ったもの)を取り上げ全体で話し合うことによって解決する。

- ・自分タイムで考えたキーワードだけでなく、交流タイムや全体タイムを通して考えたキーワードも取り入れるとよいことを助言する。
 - ・書く作業に戸惑いのある児童に対しては、定型文のヒントカードを提示し、〇〇に適語を補えるよう個に応じ助言する。
 - ・文が完成した児童は、救急車の絵を入れ、乗り物カードを完成させるように話す。
- (評)「役目」「工夫」「機能」を読み取り、基本の文型を使って救急車を紹介する文を書いている。
- 【乗り物カード】

- ・次時は、いろいろな乗り物について本などで調べ、いろいろな乗り物について本などで本時の学習を生かして、自分だけの乗り物カード作りに取り組むことを知らせる。